

地震
備えて安心
〜南海地震などから学ぶ
災害への備え
49

風水害に備えよう

今年も集中豪雨や台風などによる風水害の多い季節が近づいてきました。

梅雨の時期では、梅雨前線による大雨や長雨などにより、河川の氾濫や土砂災害が発生しやすくなります。中でも短時間に狭い地域に集中して降る「集中豪雨」には特に注意が必要です。集中豪雨は突発的に降るので予測が困難であり、ときに大きな被害をもたらすことがあります。

そのような風水害に対して日ごろから備えておくことや、被害を未然に防ぐ知識などを紹介します。少しでも危険を感じたら自主的に避難するようにしましょう。

【知る】
地域の状況を知る

お住まいの地域で過去に起こった災害などを知っておくことが必要です。自主防災組織などで危険な場所、避難場所、避難経路などを

確認・点検をし、落ち合う場所を決めておく。

◆気象情報など情報の入手
台風の接近時や雨が降り続いたりしたときなどは、テレビやラジオで気象情報を収集し、充分注意する。
※雨量などに関しては左図を参照ください。

【備える】

◆非常持ち出し品の確認
飲料水や食料、避難のために必要なもの（懐中電灯、ラジオ、衣類など）、個人ごとの必需品（持病の薬、生理用品など）。

◆住まいの点検
●瓦やアンテナは固定されているか。
●雨どいが詰まっていないか。
●外壁に亀裂はないか。
●窓ガラスにひび割れ、がたつきがないか。

【行動する】

◆風水害時の避難の注意点を
動きやすく安全な服装をし、足元は運動靴にする。
●道路などが浸水してしまつたら側溝などが確認できないので、杖を持つて足元を確認しながら歩く。
●単独では行動せず、家族や近所の人と行動する。
●避難勧告などが出されていなくても、危険を感じたらすぐ避難する。

今年5月27日より気象警報が市町村単位での発表となり、警戒の対象となつていることが分かりやすくなりました。
避難の呼びかけを待つて行動するのではなく、危険を早めに察知し、正しい情報に基づき早めの対応を心がけましょう。家族や地域で協力し合い、対応することが被害の抑制につながります。

雨量と水害

1時間に20ミリ以上の雨がふると、地割れや地表が流されたり、ガケ崩れの危険が予想されます。

1時間雨量 5～15ミリ
●地面に水たまりができ、雨の降る音が聞こえる。

1時間雨量 15～20ミリ
●地面一面に水たまりができ、雨の音で話が聞きとれない。

1時間雨量 20～30ミリ
●いわゆる土砂降り状態で下水があふれる。

1時間雨量 30ミリ以上
●バケツをひっくり返したような雨が降る。

JA高知はた農協より黒潮町にAEDが寄贈されました

去る5月25日、JA高知はた農業協同組合様よりAED（自動体外式除細動器）を2台寄贈いただきました。これで、黒潮町内には本年広報5月号で紹介した設置場所に加え、以下の2カ所に設置することができ、全部で19台のAEDが設備されています。

今後も各地区の公共施設やコミュニティ施設を中心に設備を進め、一刻を争う救急処置の際に役立てていきたいと思ひます。

最後になりますが、消防防災行政に対するご協力いただいたJA高知はた農業協同組合様にお礼を申し上げます。ありがとうございました。

【寄贈AED設置場所】

- 湊川ふれあいセンター
- 熊野浦集会所



●このページの記事に関するお問い合わせ

【本庁】総務課 消防防災係 ☎43-2112（直通） 【佐賀支所】地域住民課 総合窓口第1係 ☎55-3113（直通）